

【No. 13】 河川の侵食堆積作用は、陸上の表層物質の移動営力及び陸上地形の形成要因として重要である。河川的作用に関する記述⑦～⑩の正誤の組合せとして最も妥当なのはどれか。

- ⑦ 山地を流れる河川の上流域では、侵食力が強く急流ができやすいため、断面がU字状の深い谷が発達する。
- ⑧ 河川が山地から平野に流下するところに行ける扇状地は、網状に分岐・合流した河道がもたらした砂礫質の粗粒堆積物に富むことが多い。
- ⑨ 河岸段丘は、日本のような地殻変動の大きい地域に発達しやすい階段状の河成地形で、標高の高い段丘ほど形成年代が新しい。
- ⑩ 蛇行河川には、河道、突州、自然堤防、氾濫原などの地形が発達するが、河川の流路の移動によって、上方細粒化を示す堆積物の積み重なりが形成されることが多い。

- |    |   |   |   |   |
|----|---|---|---|---|
|    | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |
| 1. | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 2. | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 3. | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 4. | 誤 | 誤 | 正 | 正 |
| 5. | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |

【No. 14】 地球史に関する次の記述の⑦～⑩に当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

「地球史における始生代(太古代)から原生代への変化は大陸地殻に記録されている。始生代の地殻は、多数の片麻岩体や花崗岩体からなる長さ 100 km 程度の地質体と、⑦ と呼ばれる地質体からなっている。⑧ は Mg に富む超塩基性火山岩である ⑨ や玄武岩、さまざまな堆積岩などから構成され、その多くは変成作用を受けている。原生代以降現在までの造山帯の中核には、一般的な ⑩ もみられ、片麻岩・花崗岩地域の周辺部に分布している。一方、原生代の地殻は、それらを覆うようにして分布し、大規模な堆積盆をつくり、その中には広い範囲にわたる ⑪ が分布している。また、原生代の地殻を縦断するような大規模な変成帯も出現するようになる。このことから大陸地殻の大きさや火山活動の性質、海洋の性質が大きく変化したことが分かる。」

- |    |           |        |       |       |
|----|-----------|--------|-------|-------|
|    | ⑦         | ⑧      | ⑨     | ⑩     |
| 1. | グリーンストーン帯 | デイサイト  | 広域変成帯 | 石灰岩層  |
| 2. | グリーンストーン帯 | コマチアイト | 広域変成帯 | 縞状鉄鉱層 |
| 3. | チャート帯     | デイサイト  | 広域変成帯 | 石灰岩層  |
| 4. | チャート帯     | デイサイト  | 岩塩帯   | 縞状鉄鉱層 |
| 5. | チャート帯     | コマチアイト | 岩塩帯   | 石灰岩層  |